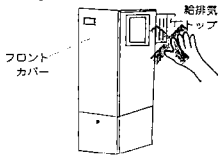


特に注意していただきたいこと(つづき)

(5) 火傷にご注意

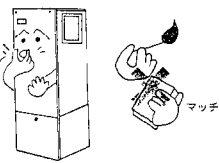
使用中および消火直後は、フロントカバーや、給排気トップが高温になっていますので、絶対に手を触れないでください。



(6) ガス事故防止

ガス漏れに気づいたときは、すぐ使用をやめてガス元栓を閉め、お求めの販売店かガス会社に連絡してください。

(注) 万一ガスが漏れたときは、絶対に火をつけたり、近くの電気器具のスイッチの「入・切」をしないでください。

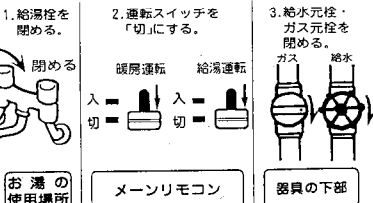


(7) 凍結についてのご注意

冬期は、寒冷地だけでなく、暖かい地方でも急な寒波のため器具内の水が凍って、器具を破損することがあります。詳しくは、11～12ページの「冬期の凍結による破損防止について」をお読みください。

(8) 異常時の処置

万一、異常燃焼(メインバーナー着火時や使用中に「ゴー」と音するような燃焼)をおこしたときや、緊急の場合には、下記の処置をし、お求めの販売店かガス会社に連絡してください。



(9) 器内に長時間たまった水は、飲用または調理に用いしないでください。

(10) アース(接地)のご確認

ご使用前に、次のいずれかの方法で正しくアースされていることを必ずご確認ください。

- 分電盤内のアース端子へアース線が接続されているか。
- アース棒を使用しているか。
- コンセントのアース端子へアース線が接続されているか。

■ 日常の点検・手入れ

- 日常の点検・手入れは、必ず行ってください。(詳しくは14ページをお読みください。)
- 故障または破損したと思われる場合は、お求めの販売店かガス会社にご相談ください。不完全な修理は危険です。

■ ポンプロック予防について

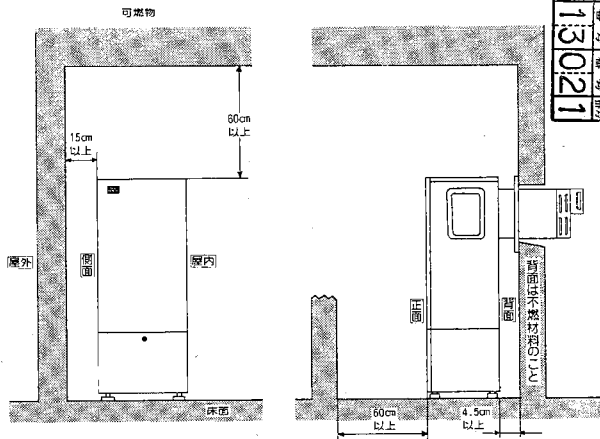
暖房シーズンオフ時に、給湯をお使いになると温水循環用ポンプが約30秒運転することがありますが、ポンプロック予防のため異常ではありません。

器具の設置及び付帯工事

- 器具の設置は購入店に依頼し、安全な位置に正しく設置してください。
- 設置例のように正しく工事が行なわれているか確かめてください。

■ 器具の設置について

AD-207FFB (屋内用)

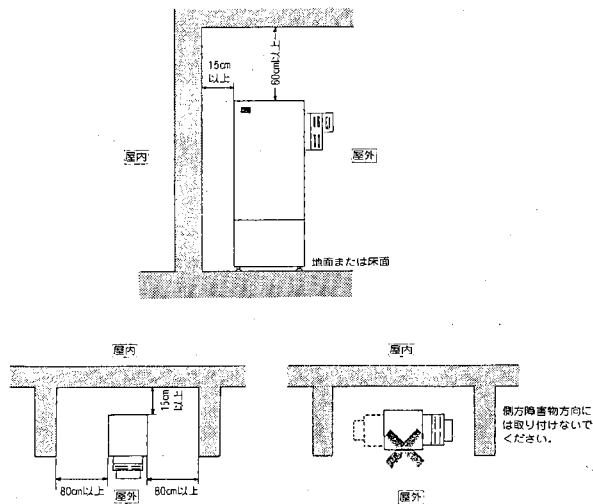


- 火災予防上、また保守・アフターサービス上、建築構造から器具の両側面までは15cm以上の空間が、背面までは4.5cm以上の空間があるか確かめてください。
- 正面は、保守・アフターサービス上、60cm以上の空間があるか確かめてください。

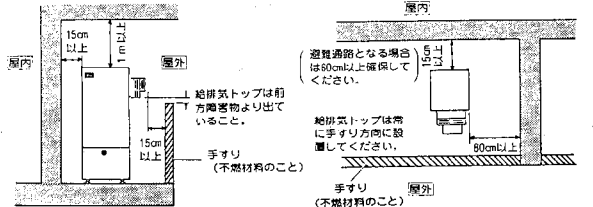
器具の設置及び付帯工事(つづき)

AD-207RFB (屋外用)

1 給排気トップ方向に給排気を阻止する障害物(ベランダなど)がない場合の条件



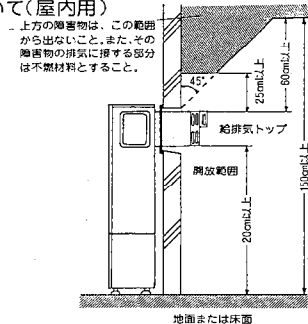
2 給排気トップ方向に給排気を阻止する障害物(手すりなど)がある場合の条件



■ 給排気トップの取り付けについて(屋内用)

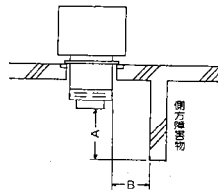
(1) 前方に給排気を阻止する障害物がない場合は、前方および下方は右図の距離を離していますが、

- 給排気トップはその上方に燃焼上有害な突出物のない場所に設置してください。
- 給排気トップの上方25cm以内に軒や、突出物のないこと。
- 給排気トップの上方25cmをこえて、60cm以内の範囲に気流を乱すおそれのある突出物のないこと。ただし、吹き上げ風の影響のない場合には、この限りではありません。



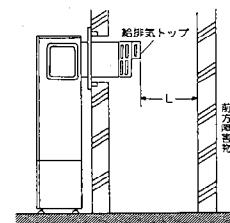
(2) 前方に給排気を阻止する障害物がない場合は、側方は右図の距離を離していますが、

A	B
40cm未満の場合	80cm以上
40cm以上の場合	30cm以上



(3) 上方、下方および側方に給排気を阻止する障害物がない場合には、前方は右図の距離を離していますが、

- ① 前方に扉や隣接建物がある場合は給排気トップ先端と前方障害物との距離は、L=60cm以上離してください。
- ② ただし、前方障害物が不燃性の場合には、L=15cm以上とすることができます。
- ③ 隣接建物のある場合は、給排気トップのすぐ上の窓などに排気が流入したりすることがないように注意してください。



器具の使用法

■点火前の準備と確認

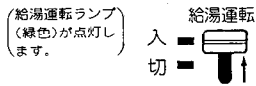
1. 給湯元栓を全開にしてください。
2. 給湯栓を開け、水の出ることを確認してから閉めてください。
3. 器具底面の補給水バルブを開けて、補給水タンクに補給してください。給湯が完了し、溢水口(オーバーフロー)に水が流れたら、補給水バルブを閉めてください。
4. ガス元栓を全開にしてください。
5. 器具用のブレーカを「入」にしてください。



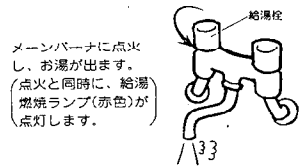
給湯の使い方

■点火

① 給湯運転スイッチを「入」にします



② 給湯栓を開けます



メインバーナに点火し、お湯が出ます。(点火と同時に、給湯燃焼ランプ(赤色)が点灯します。)

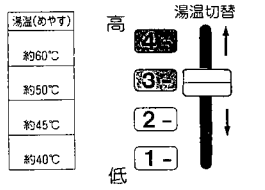
(注) 給湯燃焼ランプ(赤色)が点滅しているときは、お湯になりません。このような場合は、いったん給湯栓を閉め、しばらく待ってから給湯栓を開けてください。
(給湯栓を開け、約7秒以内に点火しなかった場合は、自動的にガスをストップし、給湯燃焼ランプ(赤色)の点滅動作でお知らせします。)

■湯温調節

① 湯温切替

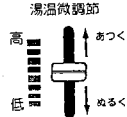
お使いになる湯温にセットしてください。(季節により多少変化することがあります。)

●中間の位置にセットしても湯温は切り替わりません。



② 湯温微調節

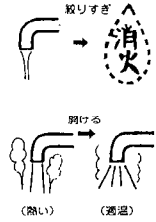
●湯温をさらに微調節されるときは操作してください。
1. 目盛で約0.3~1℃の温度差があります。



●湯量を約3ℓ以下に絞りますと、メインバーナの火が消えるようになっています。

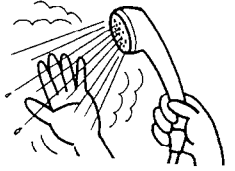
夏期には

●水温が30℃近くになりますと、湯量が少ない場合には、湯温が熱くなります。このような場合には、湯量を多く出してお使いください。



[注]

- 給湯栓で湯量を調節しますと、水の中の空気が分離して、気ほうとなり、湯が白くなる場合がありますが、空気ですので何ら心配はありません。
- シャワーをご使用のときは、手で湯温を確認してからお使いください。
- 2カ所で同時使用されますと、ゆるくなったり、湯量が少なくなることがあります。特にシャワー使用中は同時使用はやめてください。



■消火

① 給湯栓を閉めます

- お湯が止まり、メインバーナが消火し、給湯燃焼ランプ(赤色)が消えます。
- 次にお使いになるときは、給湯栓を開けるだけでメインバーナに着火してお湯が出てきます。

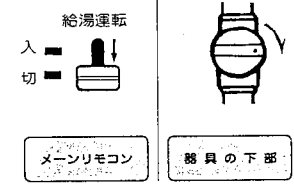


お出かけや、おやすみの際など

② 長時間使用しない場合

給湯運転スイッチを「切」にし、ガス元栓を開めてください。
給湯運転ランプ(緑色)が消えます。

1. 給湯運転スイッチを「切」にする。
2. ガス元栓を開める。



器具の使用法(つづき)

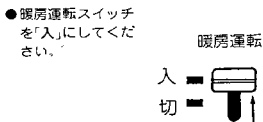
暖房の使い方

バルブを全開にします

暖房配管またはご使用になる放熱器、バスヒータなどのバルブを全開にしてください。放熱器に電動弁を使用している場合は、放熱器の切替スイッチを「ON」にするると自動的に「開」になります。

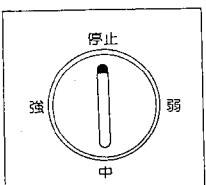
■点火

暖房運転スイッチを「入」にします



- 暖房運転ランプ(緑色)が点灯し、自動的にメインバーナに着火し、暖房燃焼ランプ(赤色)が点灯します。
- 部屋の温度調節をされるときは、ルームサーモスタットまたは放熱器の切替つまみによって行ってください。

(例) 放熱器の切替つまみ



[注]

- 暖房運転ランプ(緑色)と暖房燃焼ランプ(赤色)が点滅しているときは、暖房運転スイッチを「切」にし、補給水タンクに補給してください。補給水タンクの水は蒸発しますので約1カ月に1度ぐらい水を補給してください。(補湯使用時期により異なります。)

(器具底面の補給水バルブ①を開け溢水口(オーバーフロー)②に水が流れたら補給水バルブを閉めてください。)



- 暖房燃焼ランプ(赤色)が点滅しているときは燃焼していません。このような場合は、いったん暖房運転スイッチを「切」にし、しばらく待ってから暖房運転スイッチを「入」にしてください。
(暖房運転スイッチを「入」にして、約10秒以内に点火しなかった場合は、自動的にガスをストップし、暖房燃焼ランプ(赤色)の点滅動作でお知らせします。)

- 室温が高い場合には、暖房運転スイッチを「入」にしても暖房燃焼ランプ(赤色)が点灯しない場合があります。

- 放熱器の空気抜き弁、水抜き栓は絶対に開けないでください。
(特に2階に放熱器を設置されている場合は、空気抜きを行ったり、加湿用の水を放熱器から取ると、暖房配管の水が抜けてしまい、運転できなくなりますから注意してください。この場合は暖房運転ランプ(緑色)と暖房燃焼ランプ(赤色)が点滅します。)

■消火

① 暖房運転スイッチを「切」にします

バーナが消火し、暖房燃焼ランプ(赤色)、暖房運転ランプ(緑色)が消えます。

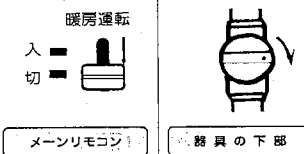


お出かけや、おやすみの際など

② 長時間使用しない場合

暖房運転スイッチを「切」にし、ガス元栓を開めてください。
暖房運転ランプ(緑色)が消えます。

1. 暖房運転スイッチを「切」にする。
2. ガス元栓を開める。

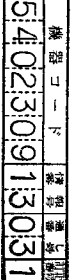


■停電後の使用方法

- 停電すると自動的にガスが止まり、給湯・暖房とも燃焼が停止します。
- 再通電したときは、給湯・暖房とも自動的に復帰し、再燃焼します。
- 長時間停電したときは、念のため給湯栓を開めて、給湯運転スイッチ・暖房運転スイッチを「切」にしてください。
- 再通電したときは、7 および 9 ページの「■点火」に従って操作してください。

■断水の場合

- 断水時は給湯栓を開め、メインリモコンの運転スイッチを「切」にしておいてください。
- 再通水したときは、7 ページに従って操作してください。



冬期の凍結による破損防止について

(暖かい地域でご使用のお客様も必ずお読みください。)

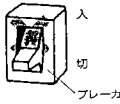


- 凍結すると器具や給湯配管が破損して、水漏れをおこしたり、器具が異常(空だきなど)をおこす危険性があります。
- 凍結による修理は有料です。

給湯

①凍結予防ヒータによる方法

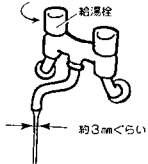
- この器具には、外気温が0℃近くになるとサーモスタットの働きで自動的に器具内を保温する凍結予防ヒータを組み込んでいます。
- 凍結予防ヒータは分電盤のブレーカが「切」になっていると作動しません。絶対にブレーカを「切」にしないでください。



- 凍結予防ヒータは、運転スイッチの「入・切」に関係なく作動します。
- (注) 外気温が極端に低く(無風時で-10℃以下)になりますと、この凍結予防ヒータだけでは効果ありません。このような場合は、次の②または③の方法を行ってください。

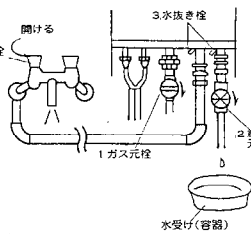
②給湯栓から水を流す方法

- ガス元栓を閉め、運転スイッチを「切」にして、お風呂場の給湯栓を開け、1分間に約200cc(牛乳びん1本ぐらい)の水を浴そうに流し込んでください。
- 流量が不安定なことがありますので、急のため約30分後にもう一度流量をお確かめください。



③水抜きによる方法

- 次の順序で行なってください。
- (1)運転スイッチを「切」にし、ガス元栓①を開める。
 - (2)給水元栓②をしっかり開める。
 - (3)水抜き栓③を開ける。(2本)
 - (4)給湯栓④を全部開ける。
- 給湯栓④と、水抜き栓③から水が抜けるのを確かめください。
 - 次にお使いになるまで、このままにしておいてください。



<水抜き後の使用方法>

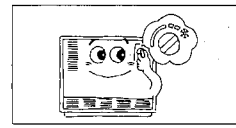
- (1)水抜き栓③を元通り、しっかり開める。(2本)
- (2)ガス元栓①を閉めた状態、および給湯運転スイッチを「切」にした状態で給水元栓②を開け、給湯栓④から水が出るのを確かめ、給湯栓④を開けてからお使いください。
- (3)再使用するときは、7ページの「点火」に従って操作してください。

■ご注意

もし凍結して水が出ないときは、使用をひかえ(給湯運転スイッチを「切」にした状態で)、給湯栓④を開け、水が出るまで待ってからお使いください。

■暖房

- (1)暖房運転スイッチを「切」にしてください。
- (2)各部屋のすべての放熱器の操作つまみを「※」にしてください。(詳細については、放熱器の「取扱説明書」に従ってください。)



(注) 分電盤のブレーカは「切」にしないでください。気温が低いときは、自動的にポンプが回り凍結を防止します。

- 暖房シーズン前にお求めの販売店がガス会社に点検をお問い合わせください。

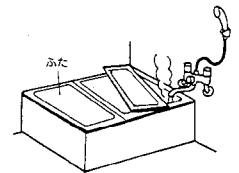
■凍結したとき

- (1)凍結した場合、ガス元栓・給水元栓を開めてください。凍結したままお使いになりますと器具に異常が生じる場合があります。
- (2)解凍したあと、水漏れがないのを確かめうごえご使用ください。
- (3)器具や配管が破損しますと、高額な修理費用がかかる場合があります。(有料)

器具の上手な使い方

■ふろへの給湯は……

- 入浴される湯温より、少し熱めで給湯し、浴そうにはふたをして、放熱ロスを防いでください。
- ご家族全員が続けて入浴される頃に浴そうに給湯すると経済的です。



安全装置が作動したときの処置方法

■処置について

点火しなかったり、ご使用中にメインバーナが消火したときは、下記の方法および15ページの故障・異常の見分け方と処置方法に従ってください。

また、次の安全装置が働いた場合には、給湯運転スイッチ・暖房運転スイッチを「切」にし、ガス元栓・給水元栓を閉めてからお求めの販売店がガス会社に連絡してください。

1. 運転スイッチを「切」にする。	2. 給水元栓・ガス元栓を閉める。	3. お求めの販売店がガス会社へ
メインリモコン	器具の下部	運 送 結

■給湯バーナ安全装置

給湯のメインバーナの炎が消えたときは、安全装置が働いて自動的にガスが止まり、メインリモコンの給湯燃焼ランプ(赤色)の点滅でお知らせします。このような場合は、7ページの方法で再点火してください。

■暖房バーナ安全装置

暖房のメインバーナの炎が消えたときは、安全装置が働いて自動的にガスが止まり、暖房燃焼ランプ(赤色)の点滅でお知らせします。このような場合は、9ページの方法で再点火してください。

■空だき防止装置(暖房)

暖房回路の水が減りますと水位スイッチが作動して自動的に運転が止まり、暖房運転ランプ(緑色)と暖房燃焼ランプ(赤色)の点滅でお知らせします。このような場合は、9ページの方法で補給水タンクに補給してください。

■空だき安全装置(給湯・暖房)

万一、メインバーナの火が消えずに、湯温が異常温度上昇したときは、ガスを自動的にストップします。

■過熱防止装置

万一、器具が異常温度上昇したときは、ガスを自動的にストップします。

■電流ヒューズ

過電流が流れますと、自動的に運転を停止します。

■過圧逃し弁(給湯)

器具内の水圧が異常に上昇したときに作動し、器具内の圧力を下げて、器具の損傷を防止します。

■停電時安全装置

使用中に停電になると停電用安全回路が作動し、ガスを自動的にストップし、運転が止まります。停電後の使用方法については10ページをお読みください。

■ファン電流検知装置

ファンモーターに電流が供給されてない場合にはファン電流検知装置により、ガスを自動的に停止します。

■凍結予防ヒータ(給湯)

給湯回路の凍結を予防するために、低温になると働きます。詳しくは、11ページをお読みください。

■水流スイッチ

給湯量を約3ℓ/分以下に絞りますと、自動的にガスが止まります。

■漏電安全装置

器具内の電気回路に異常がこり、漏電などの危険が生じますと、電気を自動的に停止します。

日常の点検・手入れ

点検・手入れの前には、必ず給水元栓とガス元栓を開め、メインリモコンの給湯運転スイッチ・暖房運転スイッチおよび分電盤のブレーカを「切」にして、器具が冷えてから行ってください。

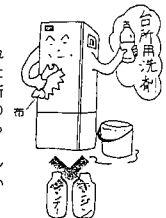
■点検

- 器具および配管より水漏れ・ガス漏れはありませんが、(ガス漏れは、配管接続部に石けん水など)をつけて調べてください。
- 運転中に、器具から異常音が聞こえませんか。
- 器具の外観に異常は見られませんか。
- 器具のまわりに燃えやすいものはありますか。

■お手入れ

器具の表面が汚れたときは、布またはスポンジに台所用洗剤(中性洗剤)をつけてふき取ってください。シンナー・ベンジンなどではふかないでください。

(注) メインリモコンの内部には電気部品が入っていますので、ぬらさないようにしてください。



■定期点検のおすすめ

ご使用上支障がない場合でも、不慮の事故を防ぎ、安心してより長くご使用いただくために、定期点検をお求めの販売店がガス会社にご相談ください。

長期間使用しない場合

必ずガス元栓・給水元栓を閉め、メインリモコンの給湯運転スイッチ・暖房運転スイッチおよび分電盤のブレーカを「切」にして、下記の処置を行なってください。

■給湯側

11ページの④水抜きによる方法を参照のうえ、水抜きを行なってください。

■暖房側

お求めの販売店がガス会社にご連絡ください。調達のうえ必要とあれば不凍液を入れさせていただきます。

機器コード
54:0230913041

故障・異常の見分け方と処置方法

ご使用中に、ふだんと違った状態になったときや不都合が生じたときは、そのままお使いにならず、ただちにご使用を中止され、十分な点検をしてください。

■故障・異常の見分け方と処置方法について(○=主要原因、△=原因)

現象	原因						処置方法	お求めの販売店がガス会社
	原因	原因	原因	原因	原因	原因		
ブレーカが「入」になっていない	○						ブレーカを「入」にする	*
ガス元栓の開き不十分	△	△	△	△	△	△	ガス元栓を全開にする	*
配管内に空気が残っている	△	△	△	△	△	△	点火操作を繰り返す	*
ガス圧が適切でない	△	△	△	△	△	△	他の器具も同様の場合は点検を依頼する(他に原因がないとき)	*
給水元栓の開き不十分	○	△	△	△	△	△	給湯栓をいったん閉めてから給水元栓を全開にする	*
水圧が適切でない	△	△	△	△	△	△	点検を依頼する(他に原因がないとき)	*
ホストレーナの詰まり	△	△	△	△	△	△	詰まり除去または依頼する	△
断水している	△	△	△	△	△	△	給湯使用をいったん中止する	*
凍結している	△	△	△	△	△	△	解冻するまで使用を中止する	*
バーナ出口の詰まり	△	△	△	△	△	△	点検を依頼する	*
空気吸込口の詰まり	△	△	△	△	△	△	点検を依頼する	*
熱交換器の目詰まり	△	△	△	△	△	△	点検を依頼する	*
給湯栓の開き不足	△	△	△	△	△	△	給湯栓を全開にする	*
ノズルの詰まり	△	△	△	△	△	△	点検を依頼する(他に原因がないとき)	*
安全装置が作動した	○	○	○	○	○	○	点検を依頼する(度々作動する場合は)	*
水流スイッチの故障	△	△	△	△	△	△	点検・修理・部品交換を依頼する(他に原因がないとき)	*
電気部品の故障	○	△	△	△	△	△	点検を依頼する	*
ポンプが回転しない							点検を依頼する	*
ホストレーナまたはポンプのごみ詰まり							点検を依頼する	*
補給水タンクの水不足							補給水タンクへ水を補給する	*
燃焼用ファンが回転しない	○						点検を依頼する	*

仕様(つづき)

〈品名 AD-207FFB(66用)・AD-207FFBZ(12A・13A用)〉
 〈品名 AD-207RFB(66用)・AD-207RFBZ(12A・13A用)〉
 〈型式名 AD-207FFA, AD-207RFA〉

使用ガス	1時間当たりのガス消費量 kW (kcal/h)				標準出力 kW (kcal/h)	
	全ガス消費量	給湯ガス消費量	暖房ガス消費量	給湯	暖房	能力最大時
都市ガス用						
4B						
4C						
5C	34.9 (30 000)	28.5 (24 500)	8.84 (7 600)	9.88 (8 500)	22.7 (19 500) (13号)	8.14 (7 000)
6A	36.0 (31 000)	28.5 (24 500)	8.84 (7 600)	9.88 (8 500)	22.7 (19 500) (13号)	8.14 (7 000)
6B	34.9 (30 000)	28.5 (24 500)	8.84 (7 600)	9.88 (8 500)	22.7 (19 500) (13号)	8.14 (7 000)
6C	35.5 (30 500)	28.5 (24 500)	8.84 (7 600)	9.88 (8 500)	22.7 (19 500) (13号)	8.14 (7 000)
7C						
12A	34.7 (29 800)	26.5 (22 800)	8.26 (7 100)	9.19 (7 900)	21.2 (18 200) (12号)	7.56 (6 500)
13A	37.2 (32 000)	28.5 (24 500)	8.84 (7 600)	9.88 (8 500)	22.7 (19 500) (13号)	8.14 (7 000)
LPGガス用	37.3 (27.1 kg/h)	28.6 (20.4 kg/h)	8.82 (6.63 kg/h)	9.94 (0.71 kg/h)	22.7 (19 500) (13号)	8.14 (7 000)

●出湯能力の〔 〕内は、水温+25℃上昇に換算した相当出湯能力(号数)です。

仕様

機種名		ガス給湯暖房機	
型式名		AD-207FFA	AD-207RFA
品名		AD-207FFB AD-207FFBZ	AD-207RFB AD-207RFBZ
種類	給湯方式	先止め式	
	暖房方式	温水循環方式	
設置方式	給排気方式	強制給排気式	屋外強制排気式
	方式	屋内用	屋外用
点火方式	方式	電子イグナイタによる連続放電点火式	
着火方式	給湯	ダイレクト着火	
	暖房	ダイレクト着火	
外形寸法	本体	高さ941mm(据置台込みで1365mm)×幅420mm×奥行366mm	
	メインリモコン	高さ255.6mm×幅156mm×奥行35mm	
質量	本体	37.5kg(運転時41.5kg)	
	メインリモコン	0.7kg	
水圧	使用水圧	100 kPa (1 kgf/cm ²) 以上	
	作動水圧	20 kPa (0.2 kgf/cm ²)	
最低作動水量	給湯	3 ℓ/分	
	暖房	0 ℓ/分以上(納切り使用可能)	
ポンプ機外揚程		39.2 kPa (4.0 mH ₂ O (5 L/minのとき))	
温度制御方式	給湯	電子式比例制御方式	
	暖房	電子式Hi-Lo-OFF制御方式	
温度調節	給湯	11約40℃ 12約45℃ 13約50℃ 14約60℃	
	暖房	比例域: 30℃ Lo-OFF域: 68~88℃	
給湯量制御方式		最大約 8 ℓ/分の定流量弁方式	
排気ファン制御方式	給湯	負荷によるHi-Lo制御	
	暖房	負荷によるHi-Lo-OFF制御	
安全装置	同	Hi一定(強回転)	
		給湯バーナ安全装置・暖房バーナ安全装置・空だき防止装置 空だき安全装置・過熱防止装置・電流ヒューズ・過圧防止弁 停電時安全装置・ファン電流検知装置・凍結予防ヒータ 水流スイッチ・誘導電保護装置・漏電安全装置	
消費電力		最大 145W	
		凍結予防装置作動時: 135W	
接続	ガス	PT1/2オネジ	
	給水・給湯	PT1/2オネジ	
	暖房	PF3/4オネジ	
	オーバーフロー	PT1/2オネジ	
電気		本体電源AC100V 3心(うち1心アース用)	
		メインリモコン本体 DC24V 8心	
付属品		リモコン(一式)	
別売品		据置台・給排気トップ(RF/FF)	

アフターサービス

(1)保証書

保証書は、必ず「販売店名・お買上げ日」等の記入をお確かめになり、保証書内容をよくお読みの後、大切に保存してください。

(2)保証期間 — 2年間

正常な使用状態で、この期間内に万一故障の生じた場合は、保証書の記載内容に基づき2年間無料修理致します。

(3)保証期間中に修理を依頼されるとき

15ページの「故障・異常の見分け方と処置方法」に従って調べていただき、なお異常のあるときは、必ずガス元栓・給水元栓を開けて、メインリモコンの給湯運転スイッチ・暖房運転スイッチおよび分電盤のブレーカを「切」にして、お求めの販売店がガス会社にご連絡ください。なお、寒冷時には水抜きをしてください。保証書の記載内容によりお求めの販売店がガス会社が修理致します。

〈連絡していただきたい内容〉

- 住所・氏名・電話番号
- 品名・お買上げ日
- 保証書をご覧ください
- 故障内容・異常の状態(できるだけ詳しく)
- 訪問ご希望日

(4)保証期間経過後、修理を依頼されるとき
 お求めの販売店がガス会社にまずご相談ください。修理により製品の機能が維持できる場合には、ご要望により有料で修理致します。

(5)補修用性能部品の最低保有期間

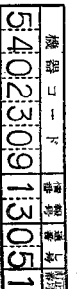
ガス給湯暖房機の補修用性能部品の最低保有期間は製造打切り後7年です。この期間は通商産業省の指導によるものです。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

(6)保証期間中の修理などアフターサービス

についてご不明な点は、お求めの販売店がガス会社にお問い合わせください。

(7)ガスの種類の異なる地域へ転居される

とき
 ガスには15の種類があります。ガスの種類が異なる地域へ転居される場合には、改造・調整が必要です。この改造・調整に伴う費用は保証期間内でありましても有料です。17ページの「仕様」において使用ガスグループ中の空白部は、お求めの販売店がガス会社にお確かめください。
 (器具銘板に表示してある電源(電圧・周波数)以外の電源では使用できません。転居・移設の際は、近隣の家に迷宮にならない場所に設置してください。騒音ガスを防ぎ、湯温で補木が枯れたりします。



型式名 AD-207FFA・AD-207RFA ガス給湯暖房機保証書

品名 AD-207FFB AD-207RFB
AD-207FFBZ AD-207RFBZ

上記器具をお買い上げいただきましてありがとうございます。この保証書は東京ガス供給区域内において都市ガス用として、ご使用になる場合本書記載内容で無料修理をお約束するものです。

- 記
- (1) 保証期間は、お買い上げの日から2年間とし器具本体を対象とします。
 - (2) 万一故障の場合はお買い上げの店、もしくはもよりの東京ガスへお申し出ください。原則として出張修理をいたします。
 - (3) サービス員が参上した時に本証書をお示しください。
 - (4) 保証期間中でありましても次の場合には有料修理といたします。
 - (イ) 取扱説明書、本体取付ラベル等の注意書に由来しない使用に起因する故障
 - (ロ) お買い上げ後の取付場所の移動、落下等による故障および損傷
 - (ハ) 火災、天災、地震等による故障、その他不可抗力による故障
 - (二) お買い上げの店、あるいは東京ガスに、ご連絡なしに改造された場合の故障
 - (ホ) 器具に表示してある以外のガスでご使用のため改造された場合。ただし、当社都合の場合はのぞきます。
 - (ヘ) 本証書を紛失された場合
 - (ニ) 無料修理やアフターサービス等について、ご不明の場合はお買い上げの店または、もよりの東京ガス支社・営業所にお問い合わせください。

修理記録

この器具の修理記録は、器具本体の上部フロントカバーの裏に記載します。

お買い上げ日および販売店名

お買い上げ日	年 月 日	販売店名	取扱者
			印

住所	電話番号
----	------

保証履行者 東京ガス株式会社 東京都区港区海岸1丁目5番20号
保証責任者 松下電器産業株式会社 奈良県大和郡山市高井町800
カスシスシステム事業部 電話 03(3433)2111
電話 07435(6)1121

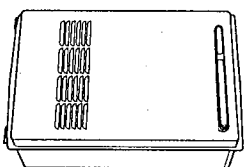
- お客様へ
1. この保証書をお受け取りになる時に販売年月日、販売店名、取扱店が記入してあることを確認してください。
 2. 本保証書は持ち回しできませんので大切に保管してください。
 3. 無料修理期間経過後の故障修理等につきましては取扱説明書をご覧ください。
 4. この保証書によって、お客様の法的権利を制限するものではありません。

製造者 松下電器産業株式会社 カスシスシステム事業部
奈良県大和郡山市高井町800番地 電話 (07435) 8-1121 千639-11

取扱説明書 (別冊)

「安全上のご注意」

ガス給湯暖房機



ご使用の前に「取扱説明書」及びこの取扱説明書(別冊)をよくお読みの上、正しくお使いください。そのあと大切に保管し、必要なときお読みください。

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ず「お守りください」のことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使い方をした時に生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

- 危険** この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う危険が切迫して生じることが想定される」内容です。
- 警告** この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
- 注意** この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。(下記は、絵表示の一例です。)

- 危険** このような絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。
- 警告** このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
- 注意** このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

機器コード 40230913061

